

屋島地域での八十八ヶ所巡礼

四国は、仏教の僧侶空海（774-835）ゆかりの寺院を巡る四国八十八ヶ所巡礼で有名である。高松市には 5 つの四国遍路の寺院があり、そのうちの 3 つが屋島かその近くにある。一宮寺、屋島寺、八栗寺だ。

高松市中心部にある一宮寺は、遍路道の 83 番目の札所。大宝年間（701～704 年）に創建され、空海自身が本尊を彫ったといわれている。本堂の近くには小さな石の祠があり、その中には薬師如来の像がある。悪人が祠の中に頭を入れると、石の扉が閉まり、頭が抜けなくなるという伝説がある。

次、84 番目の屋島寺は屋島山頂にある。舗装された遍路道で寺に登るルートは、湊元駅付近から始まる。その途中には、自然の湧き水を利用した井戸がある。空海が喉の渇きを感じて祈ったところ、水が湧き出たと言われている「加持水」である。それ以来、湧き水が止まったことが一度もないとも言われている。井戸の横にある石碑には、空海が彫ったと信じられている、万物の全てを意味するサンスクリット語の「阿」と「吽」の文字が刻まれている。さらに遍路道を登っていくと、旅人を守るお地蔵さんに会う。八島寺の入り口には、巡礼者が訪れたことを記録するためのゲストブックがある。

85 番札所の八栗寺は、屋島寺から歩いて約 2 時間 30 分、約 5.4 キロのところにある。屋島から相引川を渡り、五剣山の中腹に位置する八栗寺は、徒歩または山麓からのケーブルカーで行くことができる。寺の名前は、空海が境内に植えた 8 本の栗の木に由来している。八栗寺からは屋島が一望できる。